

仙台市文化財調査報告書第161集

宮城県仙台市

郡山遺跡Ⅱ

——平成3年度発掘調査概報——



1992.3

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第161集

宮城県仙台市

郡山遺跡XII

—— 平成3年度発掘調査概報 ——



1992. 3

仙台市教育委員会

序 文

郡山遺跡の範囲確認調査も本年度は12年目を迎え、毎年数々の成果を積みあげ、東北の古代史解明に一石を投じておりますことは、古代史・考古学等の識者のみならず市民の皆様方にも御承知のことと存じます。

幻の城柵としての一環を現した昭和54年以來、継続的に進められてきた発掘調査により古代の文獻に記録のない“幻の城柵”はまさに“甦る城柵”として私たちの前にその姿を現したのです。辺境とされてきた当地方の歴史観を一変した我が国最古の地方官衙跡・郡山遺跡の発見は日本の考古学・古代史学界に大きな反響を巻き起こしたものと確信しております。

本年度の調査ではⅠ期官衙の建物跡や堀跡などが発見され、Ⅰ期官衙内部の様相が次第に解明されつつあります。ここに調査の記録を余すところなく報告、公開するものであります。

市街化への動きが著しい郡山地区にあって、文化財の保存につきましてもより一層緊密な調整を必要とする状況にありますが、そのような中において、継続的な調査を実施できますことは、ひとえに土地所有者の方々、地元町内会の皆様方の多くの御協力と御支援の賜物と感謝申し上げる次第であります。

先人の残した貴重な文化遺産をつぎの世代に継承していくことは、行政によってのみ成し得るものでなく、市民一人一人の先人への深い理解と子孫への広い展望なくしては成し得ないものであります。

これからも文化財保護への深い御理解と御協力をお願いするとともに、本書が文化財愛護精神高揚の一助となりますことを願って止みません。

平成4年3月

仙台市教育委員会

教育長 東海林 恒 英

例 言

1. 本書は郡山遺跡の平成3年度範囲確認調査の概報である。
2. 本調査は国庫補助事業である。
3. 本概報は調査の速報を目的とし、作成にあたり次のとおり分担した。

本文執筆	木村浩二	I. II. IV 1・4. VI. V
	長島栄一	III
	前田裕志	IV 2・3.
遺構トレース	菅家結美子、桜井幸子、佐藤裕子、増田端枝、渡辺るり子	
遺物実測	前田、小佐野幸子、菅家、桜井、佐藤栄子、吉田りつこ、渡辺	
遺物トレース	菅家、桜井、渡辺、	
遺構写真撮影	木村、長島、前田	
遺物写真撮影	前田	
遺物補修復元	赤井沢千代子、菅井百合子、口比野園子、福山幸子、洞口礼子	

編集は木村・長島・前田がこれにあたった。
4. 遺構図の平面位置図は相対座標で、座標原点は任意に設置したNo 1原点 ($X=0, Y=0$) とし、高さは標高値で記した。
5. 文中で記した方位角は真北線を基準としている。
6. 遺構略号は次のとおりで、全遺構に通し番号を付した。

SA 柱列跡他端跡	SE 井戸跡	SX その他の遺構
SB 建物跡	SI 堅穴住居跡・堅穴遺構	P ビット・小柱穴
SD 溝跡	SK 土坑	
7. 遺物略号は次のとおりで、各々種別毎に番号を付した。

A 縄文土器	D 土師器(ロクロ使用)	G 平瓦・軒平瓦
B 弥生土器	E 須恵器	H その他の瓦
C 土師器(ロクロ不使用)	F 丸瓦・軒丸瓦	N 金属製品
8. 遺物実測図の中心線は、個体の残存率がほぼ50%以上は実線、ほぼ25~50%で一点鎖線、これ以下は破線とし、網スクリーントーン貼り込みは黒色処理を示している。
9. 本概報の上色については「新版標準土色帳」(小山・佐藤:1970)を使用した。

目 次

序 文	
例 言	
I はじめに	1
II 調査計画と実績	2
III 第90次発掘調査	5
1. 調査経過	5
2. 発見遺構・出土遺物	5
3. ま と め	7
IV 第91次発掘調査	8
1. 調査経過	8
2. 発見遺構	8
3. 出土遺物	15
4. ま と め	23
V 第92次発掘調査	25
VI 総 括	27
調査成果の普及と関連活動	30
郡山遺跡関係文献目録	31
写 真 図 版	37

I はじめに

平成3年度は郡山遺跡範囲確認調査第3次5ヶ年計画の2年次にあたり、下記の体制で臨んだ。

調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課
文化財課	課長 早坂春一
管理係	係長 鶴田義幸
	主事 白幡靖子、佐藤正幸、高橋三也、庄司 厚
調査係	係長 加藤正範
	主任 木村浩二
	主事 長島栄一

発掘調査、整理を適正に実施するため調査指導委員会を設置し、委員を委嘱した。

委員長	佐藤 巧（東北工業大学教授 建築史）
副委員長	工藤雅樹（福島大学教授 考古学）
委員	岡田茂弘（国立歴史民俗博物館教授 考古学）
	佐々木茂楨（宮城県多賀城跡調査研究所長兼東北歴史資料館副館長 考古学）
	須藤 隆（東北大学文学部教授 考古学）
	今泉隆雄（東北大学文学部助教授 歴史学）

発掘調査および遺物整理にあたり、次の方々の御協力をいただいた。記して感謝したい。

地権者	赤井沢久治、佐々木 功
調査参加者	前田裕志、赤井沢きすい、赤井沢サダ子、赤井沢千代子、安斎直子、大友鶴雄 尾形陽子、菅家婦美子、工藤まなよ、小林てる、桜井幸子、寺田ウエ子 畑中ゆかり、福山幸子、渡辺るり子
整理参加者	前田裕志、赤井沢千代子、小佐野章子、菅家婦美子、桜井幸子、佐藤栄子、 佐藤裕子、菅井百合子、畑中ゆかり、日比野園子、福山幸子、洞口礼子、 増田端枝、吉田りつこ、渡辺るり子

Ⅱ 調査計画と実績

平成3年度の発掘調査は平成2年度から始められた「郡山遺跡範囲確認調査」第3次5ヶ年計画案にもとづく第2年次として実施した。発掘調査については国庫補助金額の内示（総経費1700万円、国庫補助金額850万円、県費補助金額425万円）を得たことから、次のような実施計画（案）を立案した。

表2 発掘調査計画表

調査回数	調査地区	調査予定面積	調査予定期間
第90次	Ⅱ期官衙東南地区	700㎡	7月～11月
第91次	〃	100㎡	8月
計	2地区	800㎡	7月～11月

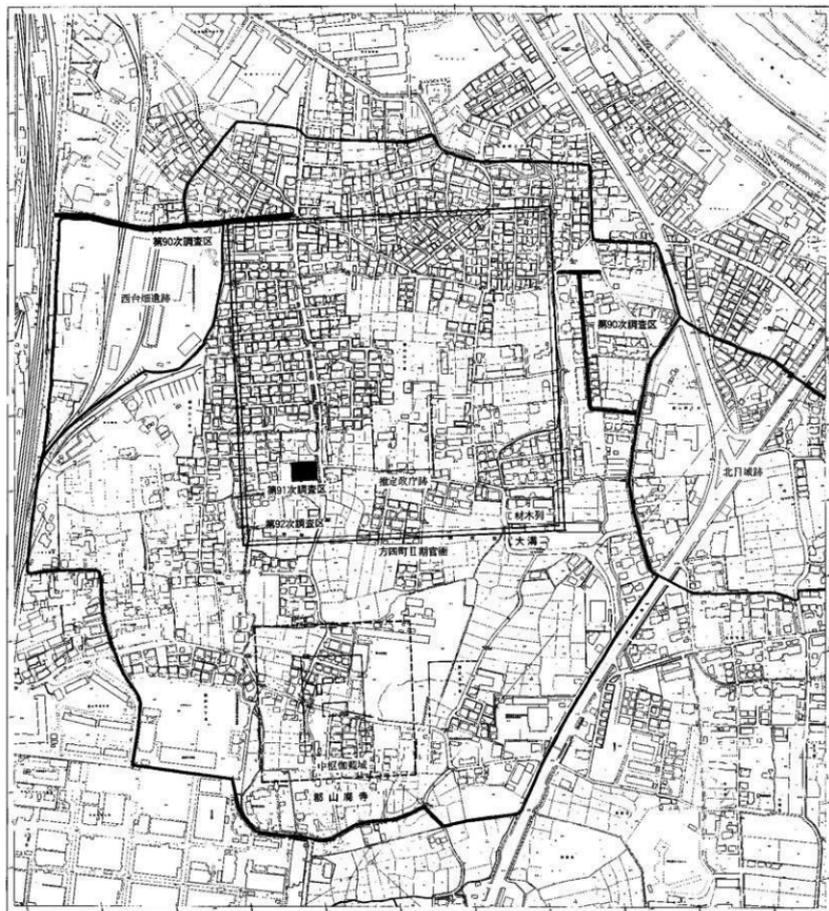
また、この他に関連遺跡の遺構確認調査として、仙台市西部の農村基盤総合整備事業にかかるとる桑里遺構の発掘調査を併せて計画立案した。

計画策定後、事業の開始にあたり、緊急に調査を行う必要が生じ、最終時には第92次までの発掘調査を実施した。

第90次調査は、上水道管理設に併う調査で、事業開始以前であったが、工事と併行して実施した。第91・92次調査は計画ではそれぞれ第90・91次としていたものである。

表2 発掘調査実績表

調査回数	調査地区	調査面積	調査期間
第90次	Ⅱ期官衙北地区	515㎡	4月11日～5月11日
第91次	Ⅱ期官衙東南地区	700㎡	8月26日～11月29日
第92次	〃	8㎡	9月3日～9月4日
計	3地区	1,223㎡	4月11日～11月29日



第1図 郡山藩跡全体図

0 400m

Ⅲ 第90次発掘調査

1. 調査経過

第90次調査は、仙台市太白区南大野田29-1 仙台市水道事業管理者伊藤昂氏より、郡山一丁目地内と郡山4丁目地内における水道管埋設工事のため、平成3年2月12日付で発掘届が提出された。従って平成3年4月11日から5月11日までの期間、管の埋設工事と併行して遺構の確認を行なった。

調査地は2ヶ所に分かれ、郡山1丁目地内を西区、郡山4丁目地内を東区とした。両地区とも水道管の埋設時に、幅80cm、深さ150cm程の開削を伴うために事前の試掘調査を実施し、既存の水道管の掘り山を利用して新設の管を入れるよう指導した。よって遺構の確認は、工事の際に開削される布掘りの断面を観察することに限られ、発見された遺構の詳細を明らかにすることはできなかった。また両地区とも市道上であり、水道管の他にガス管、下水管、電話の地下ケーブル等が既に埋設されており、遺構の確認できた箇所は少なかった。

西区は西台畑遺跡の北辺から郡山遺跡に向かって東西に延びる道路上で、延長314mである。東端において、Ⅱ期官衙外郭大溝上を通過することが予想された。東区はⅡ期官衙外郭東辺の外側の道路上で、延長329mである。

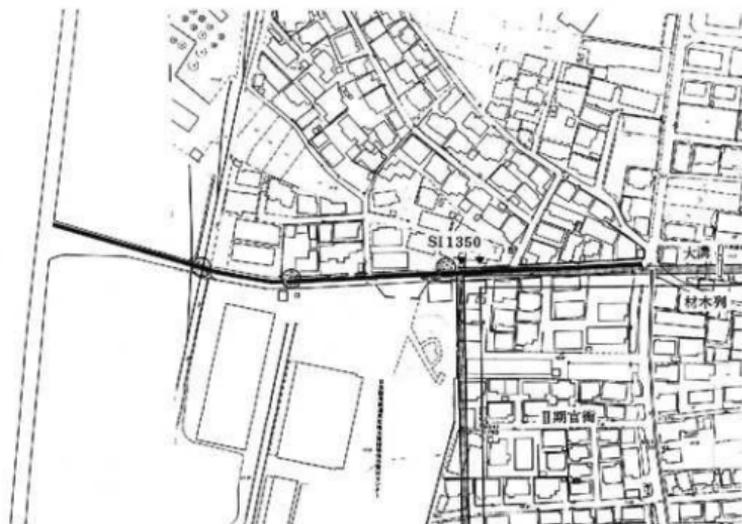
2. 発見遺構、出土遺物

今回の調査によって発見された遺構は、竪穴住居跡4軒、溝跡1条などである。

SI 1351竪穴住居跡 西区において住居跡の西壁部分と南西隅を検出した。全長にして6m前後と推定される。住居跡の上面より掘り方底面までは30cm、床面までは20cmである。床面上には炭化物が集中している箇所がある。南西隅の床面上に直径40cm、深さ30cmのピットが検出



第2図 第90次調査区位置図



第3図 第90次調査区西地区

された。土師器の小片と須恵器製片が出土している。

SI 1349竪穴住居跡 西区において住居跡の一部を検出した。検出した部分での長さは5m、深さは10cmで、貼床は観察されない。底面にソデ石と考えられる礫が1ヶ出土した。ロクロを使用していない土師器製片が出土している。

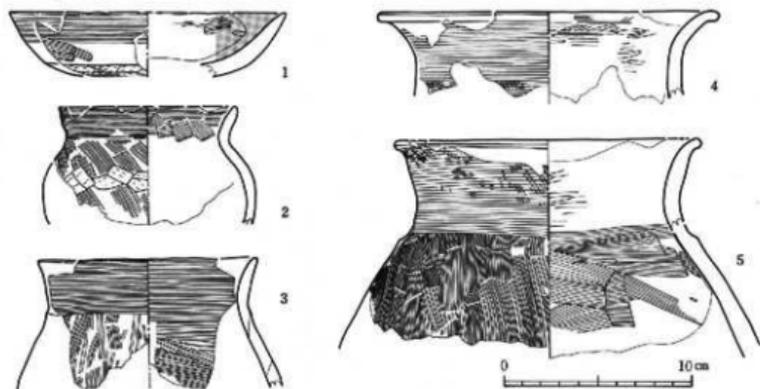
SI 1350竪穴住居跡 西区において住居跡の一部を検出したが、詳細は不明である。炭化物、焼土が集中している。堆積土中より土師器C-702坏(第5図1)、長胴形の土師器C-699甕が出土している。

SI 1348竪穴住居跡 東区において住居跡の一部を検出した。検出した部分での長さは4.7mで、長さ0.7mの煙道を有している。上面より掘り方底面までは20cm、床面までは15cm程である。煙道部には多量の炭化物、焼土がみられる。カマド付近より土師器C-701甕(第5図5)とロクロの使用された土師器製片が出土している。

SD 1354溝跡 東区において溝の一部を検出した。幅は不明であるが深さ60cmの溝跡である。



第4図 第90次調査区東地区



番号	登録番号	種別	器形	京土遺構	層位	外面調査			内面調査			法 量		焼付	備考	写真枚数	
						口縁部	胴部	底 部	口縁部	胴部	底 部	容 量	口 径				底径
1	C-702	土師器	杯	SI1350	灰化土	ヨコナデ	ナデ	ヘラナズリ	ヘラミダキ	→	黒色処理	3.4	14.6		片		
2	C-698	土師器	壺	東区	検出層中	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ヘラナデ			6.6	9.4		片		
3	C-703	土師器	壺	西区	埋藏層土	ヨコナデ	ハケメ	ハケメ	ヘラナデ			6.9	11.6		片		
4	C-700	土師器	壺	西区	埋藏層土	ヨコナデ	ハケメ	ヘラミダキ	ヘラミダキ			4.9	9.05		片		
5	C-701	土師器	壺	SI1348	カマデ	ヨコナデ	ハケメ	ミダキ	ヘラナデ			11.6	10.2		片		

第5図 第90次調査出土遺物実測図

この他に西区のⅡ期官衙外郭北辺大溝の指定位置上で、灰白色火山灰を含んだ深さ20cm程の落ち込みを、長さ10m(▼-▼)に渡って確認した。外郭南辺の大溝であるS D35溝跡の堆積土にも類似するが、攪乱のため溝跡としての断面形態などが不明瞭なことや、水田遺構の土壤の可能性もあることなどから、溝跡としての断定はできなかった。

その他の出土遺物としては、西区の旧耕作土中から土師器C-700、703甕(第5図4、3)、東区のSI 1348堅穴住居跡の検出面の層中からロクロを使用していない小型の土師器C-698甕(第5図2)が出土している。出土位置からみて、SI 1348堅穴住居跡とは関連がないと考えられる。

3. ま と め

第90次調査区では、幅80cmの布通りの断面を観察することに限られたが、堅穴住居跡4軒、溝跡1条などを検出した。住居跡の方位などが不明であることや出土遺物が少量であるため、遺構の詳しい時期などを検討することは難しいと考えられる。ただし、ロクロを使用していない土師器とロクロを使用している土師器が共存しているSI 1348堅穴住居跡は、これまで発見された郡山遺跡内の遺構でも稀なものであり、Ⅱ期官衙の年代より下の時期の遺構の存在を示すものとして注目される。

IV 第91次発掘調査

1. 調査経過

第91次調査区は方四町Ⅱ期官衙の南西地区にあたり、外郭南辺・西辺より80～100m程内側に位置していた。この地区での発掘調査は始めてであるが、昭和54年に実施した南西地区での事前調査(註1)によればⅡ期官衙の建物跡が数多く発見されており、官衙内南辺寄りに建物群の存在が想定された。今次調査はその様なこれまでの調査所見に基づいて、本地区における官衙建物の配置状況の確認並びにその性格を明らかにすることを目的として実施された。現況は畑地となっており、深さ50～80cm程の天地返しによる擾乱が全域に及んでいることが想定されたことから、重機によって表土・耕作土の排土作業を行った。

8月26日から調査を開始した。調査区は東西28m×南北22mとして設定した。表土排除の結果、耕作土擾乱の下層でⅢ層黄褐色シルト層を検出、このⅢ層上面で遺構検出作業を行った。擾乱層の深さは70～140cmで、中央部から東半部が特に深い。

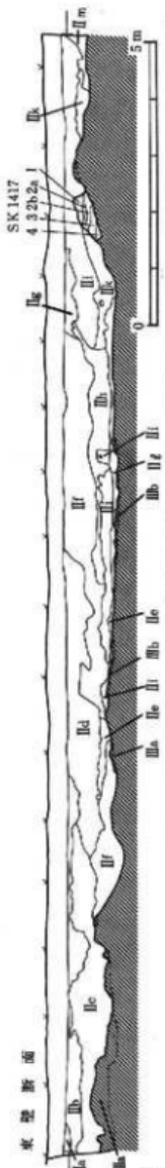
10月下旬、遺構検出作業と併行して行っていた天地返し擾乱の掘り下げが終了し、引き続き遺構精査作業に入った。遺構の精査が終了したものについては他遺構の精査と併行して平面図・断面図の作成を行った。11月29日、精査を終了し、記録の点検・追加、補足調査を実施し、12月5日から埋め戻し作業を行ない、12月7日、全ての作業を終了した。

2. 発見遺構

今回の調査で発見された遺構は、材木列1条、掘立柱建物跡2棟、土坑20基、自然河川1条、小柱穴・ピット84などがある。これらの遺構は耕作土下層の黄褐色シルト(Ⅲ層)上面で検出したものであるが、本来はこの上層で検出される遺構である。しかし、耕作による擾乱のためⅢ層上層はほとんど残っていない。これらの遺構を大別すれば重複関係や基準方向の違いにより2つの段階に分けられ、これまでの段階区分の第3段階(Ⅰ期官衙)、第5段階(平安以降)



第6図 第91次調査区位置図



調査層	土質	説明
IIa	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
IIb	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
IIc	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
III	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
IV	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
V	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
VI	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
VII	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
VIII	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
IX	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
X	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XI	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XII	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XIII	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XIV	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XV	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XVI	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XVII	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XVIII	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XIX	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XX	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XXI	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XXII	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XXIII	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XXIV	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XXV	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XXVI	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XXVII	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XXVIII	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XXIX	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。
XXX	シルト	107系別層状堆積シルト。107系別層状堆積シルトをアロツク状に含む。小量の腐植質シルトを伴う。

調査層	土質	説明
I	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
II	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
III	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
IV	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
V	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
VI	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
VII	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
VIII	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
IX	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
X	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XI	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XII	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XIII	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XIV	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XV	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XVI	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XVII	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XVIII	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XIX	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XX	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XXI	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XXII	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XXIII	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XXIV	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XXV	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XXVI	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XXVII	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XXVIII	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XXIX	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。
XXX	シルト	107系別層状堆積シルトを伴う。小量の腐植質シルトを伴う。

第7図 第91次調査区I層断面図

に相当する。耕作による擾乱が著しいため、遺物の残存が乏しい。

SA 1410材木列 南北にのびる材木列で、調査区の南にさらに続き、北側は擾乱されているがさらに続くものと思われる。長さ3.10mで、方向はN-35°-Eである。布振りの上幅が40~45cm、深さ10~25cmでほぼ中央に直径8~18cmの柱痕跡が見られる。24次調査、61次調査及び86次調査で検出されたSA 800・255の延長上に位置する。

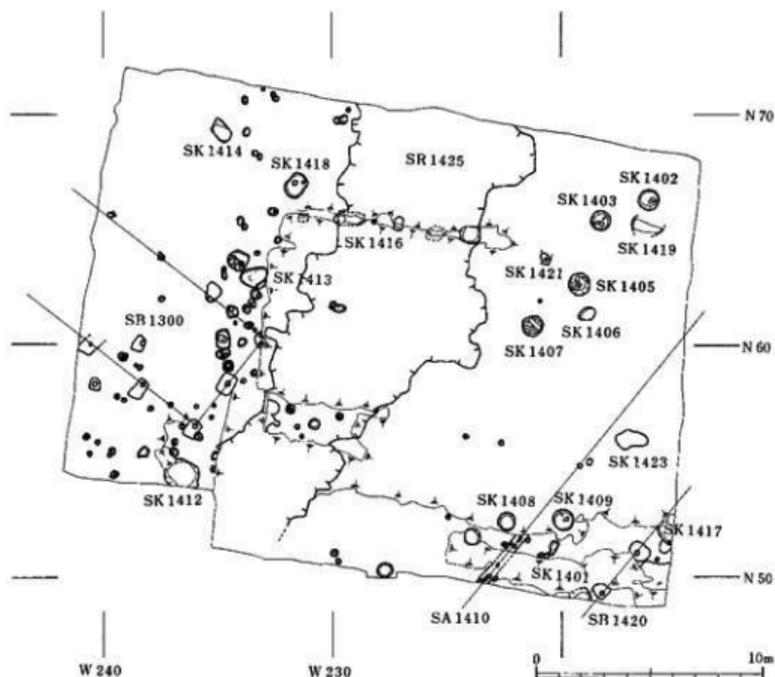
SB 1300建物跡 東西桁行3間以上、総長8.7m以上(柱間寸法290~295cm、平均292cm)、南北梁行2間、総長4.60m

(柱間寸法230c)の東西棟の建物跡で、東西の方向はN-32°-Eである。柱穴は46~64cm×70~90cmの隅丸長方形で、柱痕跡の直径が18~26cmである。

SB 1420建物跡 東西1間以上、総長2.8m以上、南北方向はN-33°-Eである。柱穴は54~70cm×60~88cmの隅丸長方形で、柱痕跡の直径は19cmである。調査区南東隅において発見されたため、柱穴が2基検出されたのみでその全容は不明である。

SK 1401土坑 直径99cmの円形で、深さ26cm、底面はやや凹凸があり、壁は底面からゆるやかに立ち上がる。堆積土は褐色・黒褐色・灰黄褐色・にぶい黄褐色粘土質シルト、黒褐色シルトで、堆積土中から土師器片が出土している。

SK 1402土坑 直径87cmの円形で、深



第8図 第91次調査区全体図

き68cm、底面はほぼ平担、壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色粘土質シルト、褐灰色粘土で、礫や木片を含む。堆積土中から須恵器甕片・弥生土器・平瓦が、底面から曲物、板材が出土している。

SK 1403土坑 直径79cmの円形で、深さ121cm、底面はほぼ平担で、壁は垂直に立ち上がる。堆積土は灰黄褐色・にふい黄褐色粘土質シルト、灰黄褐色・灰粘土である。堆積土中から土師器甕片が、底面からは曲物・棒状木製品が出土している。

SK 1404土坑 直径90cmの円形で、深さ28cm、底面はほぼ平担で、壁は偏平U字形である。堆積土は黒褐色粘土質シルト・灰黄褐色粘土である。堆積土中から須恵器甕片(漆付着)・甕片・平瓶片、土師器坏片、弥生土器片が出土している。

SK 1405土坑 直径89cmの円形で、深さ252cm、底面はほぼ平担で、壁が垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色・暗オリーブ灰粘土である。堆積土中から土師器坏片・高坏片・甕片、多量の木片や木材が出土している。

SK 1406土坑 長軸80cm、短軸54cmの楕円形で、深さ30cm、底面はほぼ平坦で、壁は偏平U字形である。堆積土は灰黄褐色シルト、にぶい黄橙色砂質シルトである。堆積土中より土師器片、弥生土器甕片が出土している。

SK 1407土坑 直径83cmの円形で、深さ255cm、底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色・黒粘土質シルト、緑黒・灰黄褐色・黒褐色粘土である。堆積土中より須恵器甕片、土師器甕片、陶器片、多量の木片や木材が出土している。

SK 1408土坑 直径68cmの円形で、深さ50cm、底面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色・暗褐色・灰黄褐色粘土質シルトである。堆積土中より須恵器甕片、土師器坏片・甕片、弥生土器片が出土している。

SK 1409土坑 直径83cmの円形で、深さ84cm、底面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色粘土質シルト・黒褐色・灰黄褐色・灰色粘土である。堆積土中より須恵器碗・壺、土師器坏片、弥生土器片等が出土している。

SK 1411土坑 直径62cmの円形で、深さ72cm、底面はやや凹凸があり、壁は垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色・黒・褐灰色粘土質シルトである。堆積土中より須恵器甕片、土師器坏片・甕片、弥生土器片が出土している。

SK 1412土坑 直径149cmの円形で、深さ11cm、底面はほぼ平坦で、壁は底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は黒褐色・にぶい黄褐色粘土質シルトである。

SK 1413土坑 長軸120cm、短軸78cmの不整楕円形で、深さ14cm、底面はやや凹凸がある。壁は偏平U字形である。堆積土は灰黄褐色粘土質シルト、にぶい黄橙色シルトである。

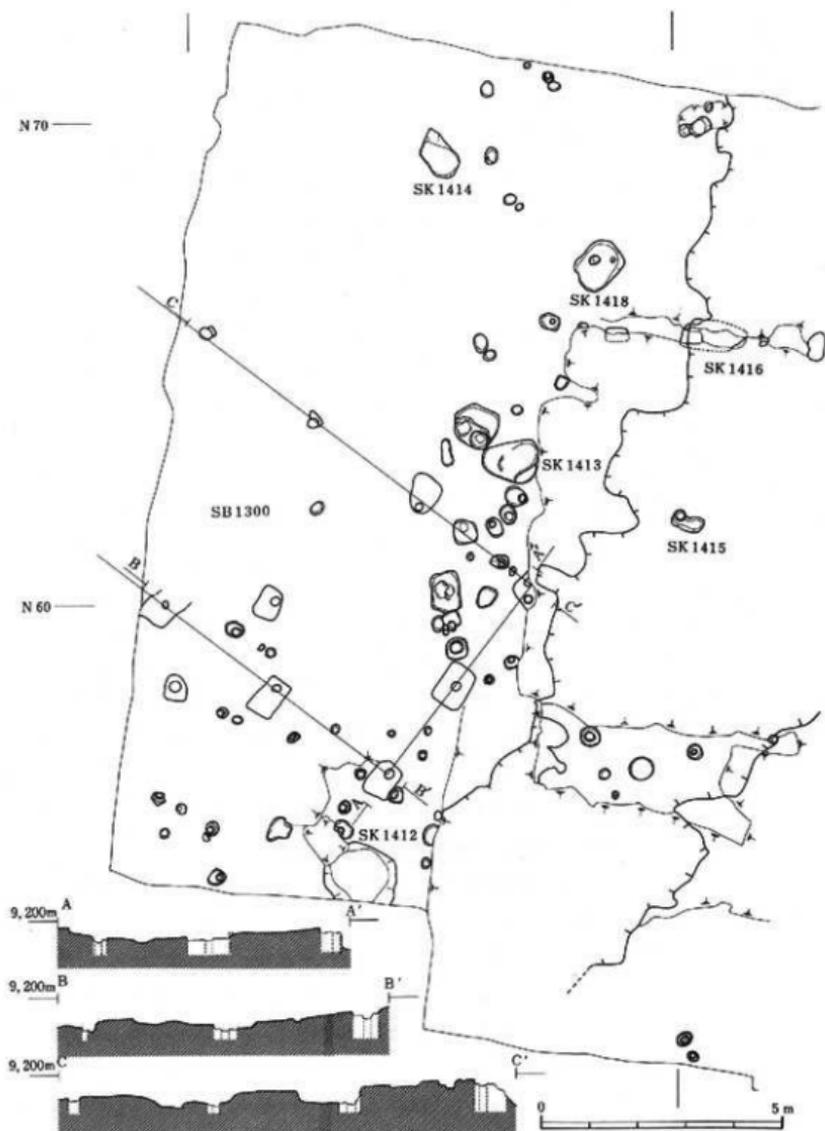
SK 1414土坑 長軸89cm、短軸60cmの隅丸長方形で、深さ22cm、底面はやや凹凸がある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色粘土、にぶい黄橙色シルトである。堆積土中より土師器片が出土している。

SK 1415土坑 長軸68cm、短軸29cmの不整楕円形で、深さ12cm、底面はやや凹凸がある。壁は攪乱が著しく不明である。堆積土は暗褐色粘土質シルトである。

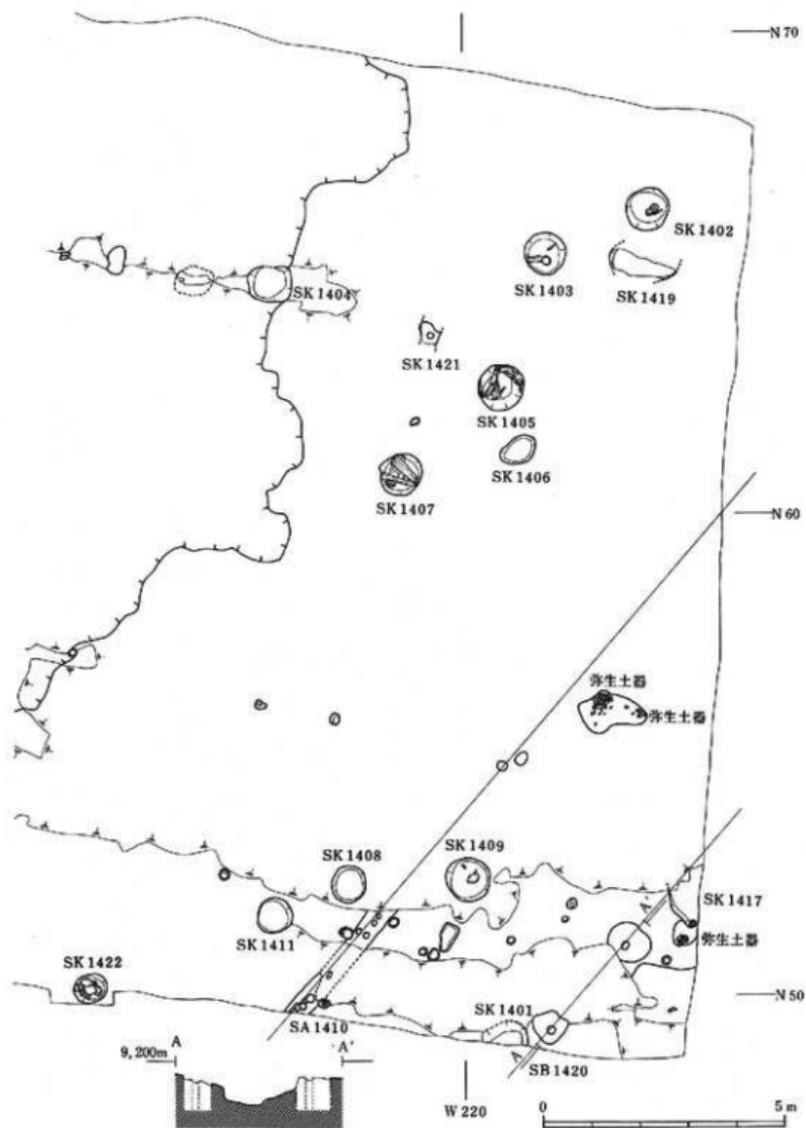
SK 1416土坑 長軸122cm、短軸30cm以上の不整形で、深さ35cm、底面はやや凹凸がある。壁は攪乱が著しく不明である。堆積土は黒褐色・灰黄褐色シルト、黒褐色・にぶい黄橙色粘土質シルトである。

SK 1417土坑 直径134cm以上の不整円形で、深さ49cm、底面はほぼ平坦である。壁は底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色シルト、にぶい黄橙色、にぶい黄褐色・褐色粘土である。堆積土から弥生土器片が出土している。

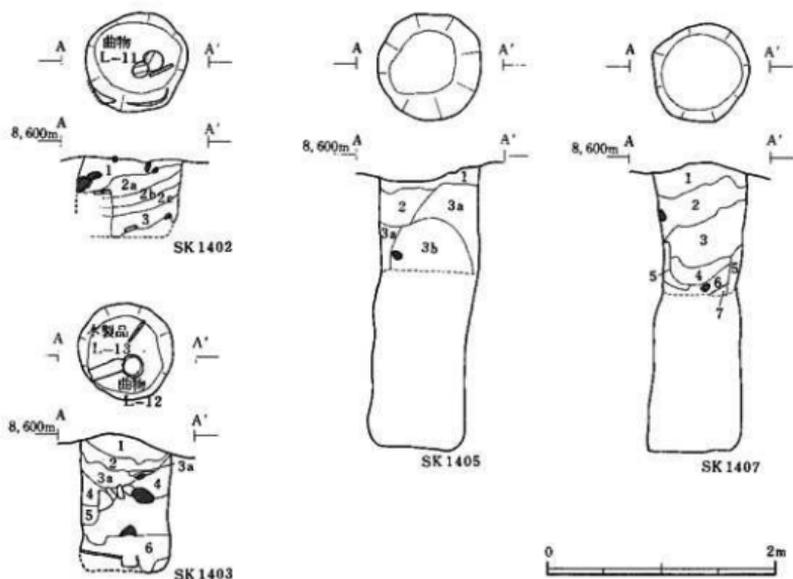
SK 1418土坑 長軸104cm、短軸80cmの隅丸長方形で、深さ25cm、底面はやや凹凸がある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は黒褐色・灰黄褐色粘土、にぶい黄橙色シルトである。堆



第9図 第91次調査区全体図(西)



第10图 第91次調査区全体図(東)



層位	土色	土性	備	考
SK 1402				
1	10Y R 灰褐色	粘土質シルト	10Y R 灰褐色粘土質シルトを部分的に腐化物を全体的に含む。酸化鉄を少量と石を含む。	
2a	10Y R 灰褐色	粘土質シルト	10Y R 灰褐色と10Y R 灰褐色粘土質シルトを部分的に含む。腐化物、酸化鉄、木片を含む。10R G 灰褐色色を多く少量含む。	
2b	10Y R 灰褐色	粘土	10Y R 灰褐色シルトをブロック状に10Y R 灰褐色粘土質シルトを部分的に含む。酸化鉄を少量含む。10R G 灰褐色色を多く少量含む。	
2c	10Y R 灰褐色	粘土	10Y R 灰褐色粘土質シルトをブロック状に、10Y R 灰褐色粘土質シルトを部分的に含む。腐化物、腐化物を少量含む。	
3	10Y R 灰褐色	粘土	10Y R 灰褐色粘土と10Y R 灰褐色粘土質シルトを部分的に含む。あざやかな層のシルト質の物質を少量含む。	
SK 1403				
1	10Y R 灰褐色	粘土質シルト	10Y R 灰褐色粘土質シルトをブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒を多く含む。	
2	10Y R 灰褐色	粘土質シルト	10Y R 灰褐色シルトを小ブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒を多く含む。	
3a	10Y R 灰褐色	粘土質シルト	10Y R 灰褐色シルトを小ブロック状に含む。酸化鉄を多く含む。	
3b	10Y R 灰褐色	粘土質シルト	10Y R 灰褐色粘土質シルトをブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒を含む。	
4	10Y R 灰褐色	粘土	10Y R 灰褐色シルトを小ブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒を含む。	
5	5Y 灰褐色	粘土質シルト	10Y R 灰褐色粘土質シルトをブロック状に含む。酸化鉄を含む。	
6	5Y 灰褐色	粘土質シルト	5Y 灰褐色、粘土質シルトと10Y R 灰褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む。	
SK 1405				
1	10Y R 灰褐色	粘土	10Y R 灰褐色シルトと10Y R 灰褐色粘土質シルトをブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒を含む。	
2	10Y R 灰褐色	粘土質シルト	10Y R 灰褐色粘土質シルトをブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒を少量含む。	
3a	10Y R 灰褐色	粘土質シルト	2.5Y 灰褐色シルトを小ブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒、腐化物を少量含む。	
3b	10Y R 灰褐色	粘土	7.5G Y 暗緑褐色シルトを小ブロック状に含む。グライディングしている。	
下層部	5G Y 暗緑褐色	粘土	3G Y 暗緑褐色粘土質シルトをブロック状に含む。木片、植物遺体を含む。	
SK 1407				
1	10Y R 灰褐色	シルト	10Y R 灰褐色砂質シルトを小ブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒を多く、腐化物を含む。	
2	10Y R 灰褐色	粘土質シルト	10Y R 灰褐色シルトを小ブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒を含む。腐化物を少量含む。	
3	10Y R 灰褐色	粘土質シルト	5G Y 暗緑褐色シルトをブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒を含む。	
4	7.5G Y 緑褐色	粘土	7.5G Y 暗緑褐色シルトを小ブロック状に含む。酸化鉄、マンガン粒、腐化物を少量含む。	
5	10Y R 灰褐色	粘土	10Y R 灰褐色粘土質シルトをブロック状に含む。酸化鉄を含む。	
6	2.5Y 灰褐色	粘土	石を含む。	
7	10Y R 灰褐色	粘土	なし	

第11図 第91次調査区土抗・断面図

積土中より土師器坏片、弥生土器片、鉄滓等が出土している。

SK 1419土坑 長軸141cm、短軸40cm以上の不整形で、深さ8cm、底面はほぼ平坦である。断面形は攪乱が著しく不明である。堆積土は灰黄褐色シルトである。

SK 1421土坑 長軸46cm、短軸40cmの不整形で、深さ12cm、底面はほぼ平坦で中央でややくぼむ。壁は底面から緩やかに立ち上がる。堆積土にはふい黄褐色シルト、黒褐色粘土である。

SK 1422土坑 直径70cmの円形で、深さ43cm、底面はほぼ平坦である。壁は垂直に立ち上がる。堆積土にはふい黄褐色・黒褐色粘上質シルトである。底面より須恵器平瓶（漆付着）、土師器甕・壺・高坏・坏片、かまどの支脚が出土した。

SR 1425河川跡 長さ22m以上、上幅420cm～724cm、深さ54cm以上の河川跡で、方向はN-25°-E、堆積土は黄褐色・明黄褐色砂質シルト、にふい黄褐色・にふい黄褐色・明褐色・橙褐色・灰黄褐色砂である。SK 1404・SK 1415・SK 1416に切られる。

3. 出土遺物

第91次調査による出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・土製品・木製品・瓦・鉄滓・石製品などである。今回の調査区は、耕作による攪乱が著しく、発見された遺構は少ないが、耕作土中に含まれた遺物が多く、そのほとんどは破片である。以下、遺構ごとに略述する。

SB 1420建物跡 北1柱穴の埋上から弥生土器鉢片、土師器片が出土している。

SK 1401土坑 堆積土中から土師器片が出土している。

SK 1402土坑 堆積土中から弥生土器B-221壺、須恵器甕片、平瓦片、底面から木製品L-11曲物（第15図3）、板材が出土している。

SK 1403土坑 堆積土中から土師器甕片、板材、底面から木製品L-12曲物・L-13棒状木製品が出土している。L-13棒状木製品はその両端に刻み状の削りが成されており、中央が凹状に削られている。用途は不明である。

SK 1404土坑 堆積土中から弥生土器片、土師器C-710（関東系）を含む坏片、須恵器E-346壺片（漆付着）・甕片・平瓶片が出土している。

SK 1405土坑 堆積土中から土師器坏片・高坏片・甕片、木材が出土している。

SK 1406土坑 堆積土中から弥生土器甕片・土師器片が出土している。

SK 1407土坑 堆積土中から土師器甕片、須恵器甕片、陶磁器片、木材が出土している。

SK 1408土坑 堆積土中から弥生土器片、土師器坏片・甕片、須恵器甕片が出土している。

SK 1409土坑 堆積土中から弥生土器片、土師器坏片・土師器片、須恵器E-345碗・壺、木片が出土している。

SK 1411土坑 堆積土中から弥生土器片、土師器坏片・甕片、須恵器甕片が出土している。

SK 1414土坑 堆積土中から土師器片が出土している。

SK 1417土坑 堆積土中から弥生土器B-216甕(第12図5)・弥生土器片、土師器片が出土している。

SK 1418土坑 堆積土中から弥生土器片、土師器坏片、鉄滓が出土している。

SK 1422土坑 底面から土師器C-707甕(第16図1)・C-708高坏(第14図7)・C-709壺(第14図6)・C-771甕・坏片、須恵器E-344平瓶(第14図9)、K-28石製品(第15図4)が出土している。C-707甕は外面ヘラケズリ調整、内面ヘラナデ調整である。C-708高坏は坏部内面は黒色処理されており、脚部の2箇所に透かしがある。E-344平瓶は内面一面と割れ口の一部に漆が付着している。K-28石製品は竈の支脚で砂岩質の石で作られており、ケズリによる調整が施されている。これらの遺物はいずれもほぼ完形で、土坑の底面より一括で出土している。

その他ピット・小柱穴より弥生土器甕片・弥生土器片、土師器坏片・甕片・土師器片が出土している。

表土・攪乱より弥生土器B-213、230~236、239~246、253鉢・B-222~229、237、238甕249、250(第14図5)高坏・B-247、248、251、254~256壺・B-252、257(第14図1)258(第14図2)259、260(第14図3)蓋を含む鉄片・甕片・その他の弥生土器片、土師器C-704坏(第14図8)・C-705、706を含む坏片(ロクロ調整の坏を含む)・高坏片・甕片(ロクロ調整の甕を含む)・土師器片、須恵器E-347坏、E-348甕を含む坏片・甕片・壺片・蓋片・甕片・平瓶片・瓶片、陶磁器、瓦質の土器、H-20面戸瓦を含む平瓦片・丸瓦片・その他の瓦片、P-23土錘・P-24フイゴ羽根を含む土製品、K-29砥石・剥片を含む石製品、鉄製品・鉄滓が出土している。B-213・253鉢は赤色顔料が塗られている。C-704坏は内外面ヘラミガキ調整で内面は黒色処理が施されている。

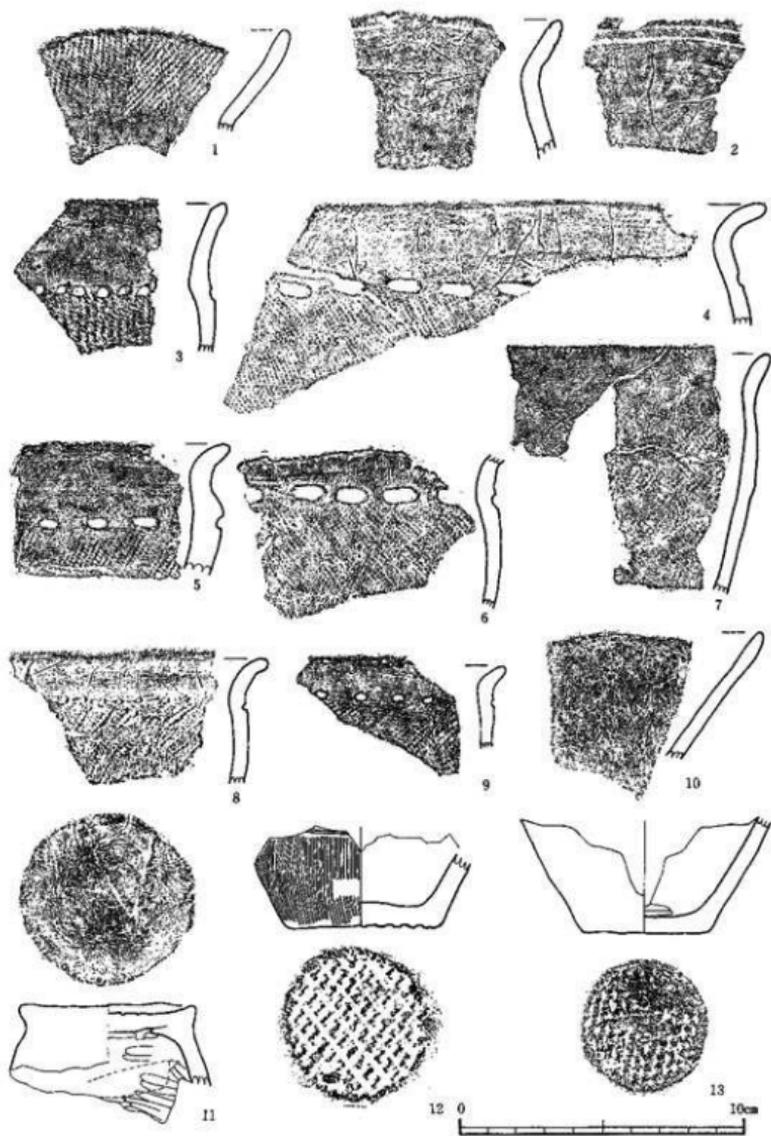
調査区の南東で、第3段階の遺構を検出したⅢ層の下層より灰黄褐色の弥生土器の包含層が検出され、B-214(第16図2)、219(第12図6)、220(第12図4)甕・B-215(第15図1)、217(第14図4)、218(第12図1)壺を含む多量の弥生土器片、K-30剥片が出土した。

91次調査区より出土した弥生土器を、東側に隣接した昭和59年度の44次調査の分類にしたがって第Ⅰ類から第Ⅴ類に分類した。

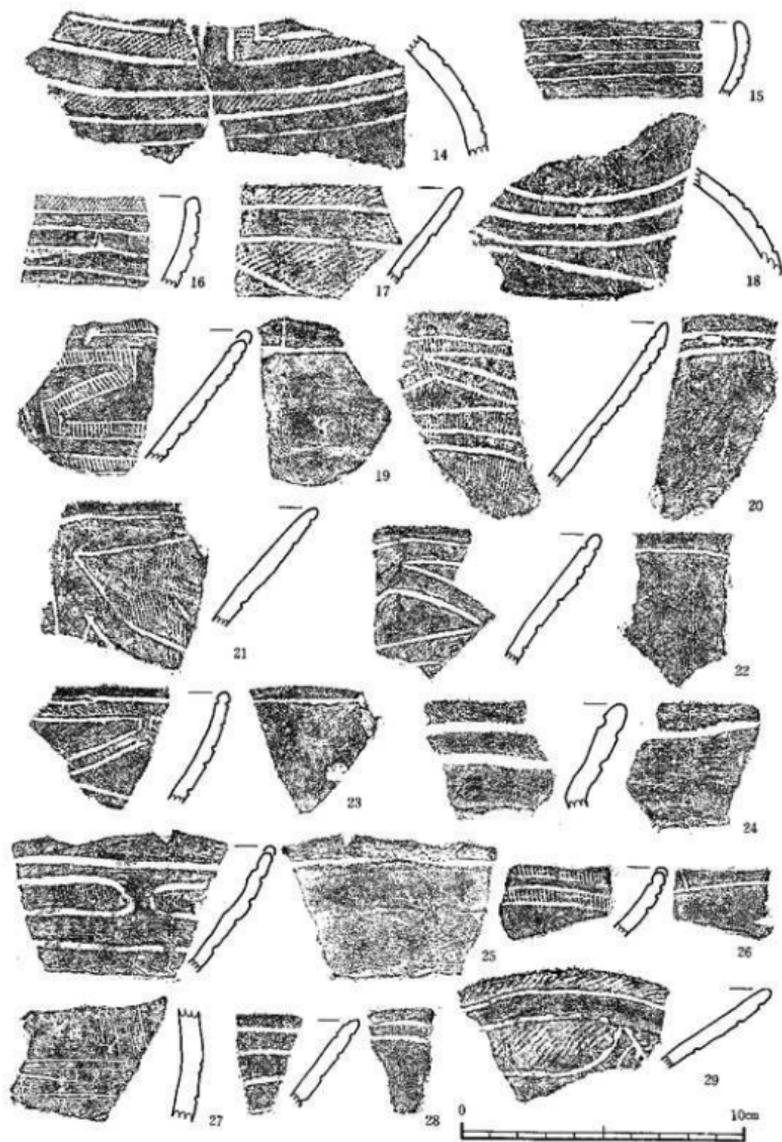
第Ⅰ類(第13図12・29)：一本引きの沈線により文様が構成されるもので、文様が横位に連続しないもの。

A(第13図29)：太い沈線のもの。 B(第13図12)：細い沈線のもの。

第Ⅱ類：一本引きの沈線により文様が構成されるもので、三本組の幾何学文が横位に連続するもの。



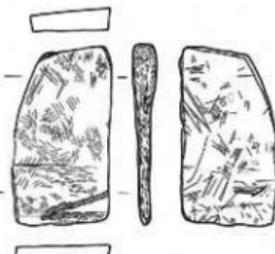
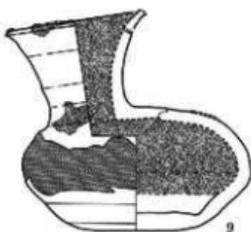
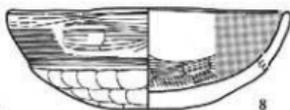
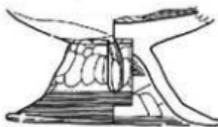
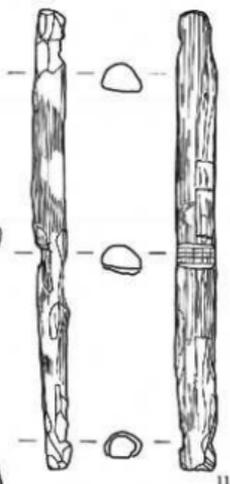
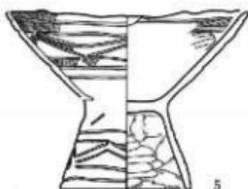
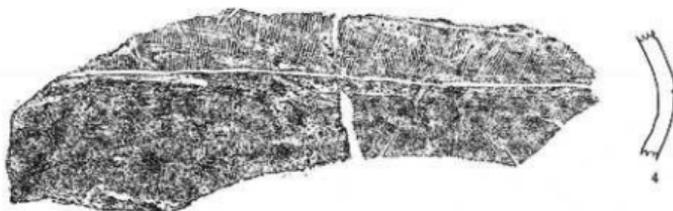
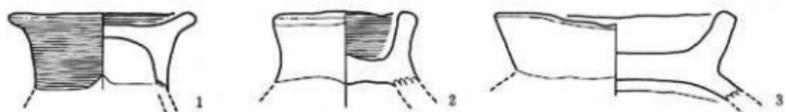
第12图 第91次調査区出土弥生土器拓影



第13回 第91次調査区出土弥生土器拓影

弥生土器観察表

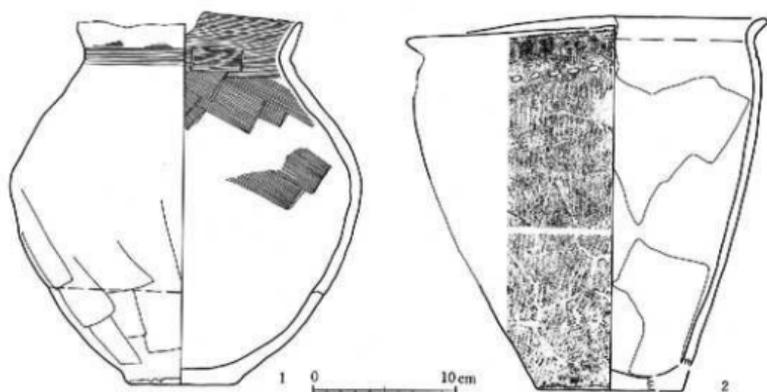
図番号	発掘番号	出土遺構	層位	器種	部位	施文		分型	備考
						外面	内面		
12-1	B 218	——	包含層	壺	口縁部	L.R.縄文(横位)	ミガキ	VAa	
12-2	B 254	——	埋込	灰	口縁部	口縁部:沈線(横位)2条→ミガキ 体部:ミガキ	沈線(横位直線)→ミガキ	IBD	
12-3	B 223	——	埋込	甕	口縁部	口縁部:ミガキ 体部:L.R.縄文(横位) →斜位(附注?)附文	ミガキ	IVBa	
12-4	B 220	——	包含層	甕	口縁部	口縁部:ミガキ 口縁部:ヨコナテ 体部:(横位)→押し引き刺突文	ミガキ	IVBa	
12-5	B 216	S R 1417	——	甕	口縁部	L.R.縄文(横位)→斜位刺突文	ミガキ	IVBa	
12-6	B 219	——	包含層	甕	口縁部	口縁部:ヨコナテ 体部:L.R.縄文(横位) →押し引き刺突文	ミガキ	IVBa	
12-7	B 229	——	埋込	甕	口縁部	口縁部:L.R.縄文 口縁部:ヨコナテ 体部:L.R.縄文(横位)	ミガキ	IVBb	
12-8	B 227	——	埋込	甕	口縁部	口縁部:R.縄文 口縁部:ヨコナテ 体部:R.縄文(附注)→斜位刺突文	ミガキ(横位)	IVBb	
12-9	B 228	——	埋込	甕	口縁部	口縁部:L.R.縄文 口縁部:ヨコナテ 体部:L.R.縄文(横位)→斜位刺突文	ミガキ	IVBb	
13-10	B 253	——	埋込	鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ	VAb	内外面に赤色顔料塗布
12-11	B 259	——	埋込	甕	天弁部	頂部平坦面:木炭痕 外部:ミガキ(筋) 頂部と外部の境を指で押さえて跡み出した	天弁部:無調整 内部:ミガキ	VE	
12-12	B 255	——	埋込	鉢	底面	底面:網代麻布 体部:横位刺突文	全面ミガキ(黄)	IBB	
12-13	B 213	——	埋込	鉢	底面	底面:網代麻布 体部:ミガキ(縦位)	全面ミガキ(黄)	VC	内外面に赤色顔料塗布
13-14	B 247	——	埋込	甕	体部	沈線(横位直線)→縦位直線 →L.R.縄文→ミガキ	ミガキ	IBC	
13-15	B 232	——	埋込	鉢	口縁部	口縁部:沈線(横位直線)4条→ミガキ 体部:ミガキ	ヨコナテ→ミガキ	IBD	
13-16	B 231	——	埋込	鉢	口縁部	口縁部:ヨコナテ 口縁部:L.R.縄文(横位) 口縁部:沈線(横位直線)5条→ミガキ	ヨコナテ	IBD	内外面に灰化付着
13-17	B 244	——	埋込	鉢	口縁部	口縁部:R.縄文(横位)→沈線(横位) 体部:R.縄文(縦位)→沈線→ミガキ	ミガキ	IBa	
13-18	B 248	——	埋込	甕	体部	沈線文→L.R.縄文(附注)→ミガキ	ミガキ	IBa	
13-19	B 242	——	埋込	鉢	口縁部	口縁部:沈線(横位直線) 体部:沈線文→縦位刺突文→ミガキ	口縁部:沈線(横位直線) (横位)→縦位直線	IBb	
13-20	B 239	——	埋込	鉢	口縁部	口縁部:ミガキ 体部:縦位刺突文(横位) →沈線文→ミガキ	口縁部:沈線(横位直線) 2条→ミガキ	IBb	
13-21	B 245	——	埋込	鉢	口縁部	口縁部:沈線(横位直線) 体部:沈線文→縦位刺突文(横位)→ミガキ	ミガキ	IBb	
13-22	B 241	——	埋込	鉢	口縁部	沈線文→L.R.縄文→ミガキ	口縁部:沈線(横位直線) 1条→ミガキ	IBa	
13-23	B 240	——	埋込	鉢	口縁部	沈線文→R.L.縄文→ミガキ	口縁部:沈線(横位直線) 1条→ミガキ	IBa	
13-24	B 237	——	埋込	甕	口縁部	沈線(横位直線)2条→ミガキ	口縁部:沈線(横位直線) 1条→ミガキ	IBD	
13-25	B 230	——	埋込	鉢	口縁部	口縁部:縦位刺突文(横位) 口縁部:縦位刺突文(横位) 体部:沈線(横位直線)→縦位刺突文(横位)	口縁部:沈線(横位直線)1条 体部:強いナテによる溝→ミガキ	VAa	内外面に灰化付着
13-26	B 243	——	埋込	鉢	口縁部	口縁部:沈線(横位直線)→縦位刺突文(横位) 体部:沈線(横位直線)1条→縦位刺突文(横位)→ミガキ	口縁部:沈線(横位直線) →ミガキ	IBb	
13-27	B 251	——	埋込	甕?	斜位刺突	斜位刺突	ナテ→ミガキ	VB	
13-28	B 233	——	埋込	鉢	口縁部	口縁部:縦位刺突文 口縁部:沈線(横位直線) 4条→縦位刺突文	口縁部:沈線(横位直線) 2条→ミガキ	IBb	
13-29	B 246	——	埋込	鉢	口縁部	口縁部:沈線(横位直線)→R.縄文(横位) 体部:沈線文	ミガキ	IA	
14-4	B 217	——	包含層	甕	体部	横位刺突文→沈線(横位直線)→ミガキ	ハナナテ→ミガキ	IBB	



0 10cm

番号	登録番号	種別	形状	出土遺跡	部位	外壁装飾			内壁装飾			寸法		備考		
						口縁部	腹部	底	口縁部	腹部	底	高さ	口径			
1	B-237	赤土土器	甕	横塚	横塚							2.8~	横塚			
2	B-238	赤土土器	甕	横塚	横塚							2.5~	横塚			
3	B-250	赤土土器	甕	横塚	横塚							3.0~	横塚			
4	B-259	赤土土器	高杯	横塚	横塚							1.2	横塚	写	B3-6	
5	C-709	土器	甕	S K 1423	横塚							7.0~	5.3	写	赤土土器の 口縁部	
7	C-708	土器	高杯	S K 1423	横塚							8.5~	横塚	写	B3-8	
8	C-704	土器	甕	横塚	横塚							5.3	15.0	3.6	写	B3-7
9	E-344	赤土土器	甕	S K 1423	横塚							11.6	6.7	5.2	写	赤土土器の 口縁部
10	X-39	赤土土器	石	横塚	横塚										写	B4-16
11	L-13	赤土土器	石	S K 1423	横塚										写	B4-15

第14図 第91次調査区出土遺物



図号	器種	形状	出土遺物	単位	外面の調査			内面の調査			法量			保存	備考	写真図版	
					口縁部	体部	底	口縁部	体部	底	容積	口径	口径				口径
1	C-707	土器	壺	JK1422		ヨコナギ	ヘラナギ	ヘラナギ	ヨコナギ	ヘラナギ		26.2	15.7	7.8	定形		33-9
2	B-216	陶器	壺		ヨコナギ	ヘラナギ	ヘラナギ	ヘラナギ	ヘラナギ		26.4	25.3	12.6	瓦			33-5

第16図 第91次調査区出土遺物

第Ⅲ類 (第12図2・12・14~20・22~24・26・28・第14図1) : 一本引きの沈線により文様が構成されるもので、二本一組の幾何学模文が横位に連続するもの。(横位直線も含む)。

- A (第13図17・18・22・23) : 磨消縄文によるもの。
- B (第12図12・第13図16・19・20・26・28・第14図1) : 充填縄文によるもの。
- C (第13図14) : 地文上に文様を描くもの。
- D (第12図2・第13図15・24) : 無文上に文様を描くもの。

第Ⅳ類 (第12図3~9) : 地文のみのもの。

- A : 口縁部と体部の境、あるいは体部上端に地文区画文を持つもの。
 - a (第12図4~6) : 押し引き連続刺突
 - b (第12図3・8・9) : 斜位連続刺突
- B : 体部上端に地文区画文を持たないもの。
 - a : 口縁部が内湾するもの。 b (第12図7) : 口縁部が外反するもの。

第Ⅴ類 (第12図1・10・11・13・第13図25・27) : その他のもの。

- A : 口縁部資料
 - a : 口縁部に地文を持つもの。B-218壺 (第12図1) は全面にLR縄文を横位に施文。B-230 (第13図25) は口唇部に剣目が有り、擬似縄文を施文、体部は沈線文・擬似縄文の充填が施されており、内外面に炭化付着物が有る。

b：無文のもの。B-253針（第12図10）は内外面ミガキ調整で、赤色顔料が塗布されている。

B：体部資料。B-251杓？（第13図27）は外面に朱痕文が施されている。

C：底部資料。B-213鉢（第12図13）は内外面ミガキ調整で、赤色顔料が塗布されており、底部に網代痕跡が有る。B-253と同一個体と思われる。

D：脚部資料。（本調査においては刻当無し。）

E：蓋頂部資料。B-259蓋（第12図11）は外面頂部平担面に木葉痕があり、外部との境を指で摘みだした。

以上第Ⅰ類から第Ⅴ類に分類したが、第Ⅱ類は該当する遺物は無く、また第ⅤE類は今回新たに追加した。これらの資料は攪乱層の中から破片で採集されたものがほとんどであるが、官衙遺構検出面の下層より出土したものと同様と考えられ、第Ⅰ類から第Ⅴ類までが混在しており44次調査と同じ出土の様相を呈している。

4. ま と め

発見された遺構は、材木列跡1条、掘立柱建物跡2棟、円形土坑7基、土坑13基、河川跡1条、小柱穴・ピット84である。これらの遺構は殆んど重複関係が見られず、わずかに河川跡と一部土坑との重複があったのみで、出土遺物もあまり多くないことから、所属段階（注2）年代等は不明なものが多い。

河川跡は他の遺構が検出された層の下層に広がっていることから、少くとも郡山に官衙が造営された7世紀中葉以前に埋没したものとみられる。

〔第3段階〕 SA1410材木列、SB1300・1420建物跡、Ⅰ期官衙段階

発見された跡・建物跡は全て本段階のものである。いずれもほぼ同方向を向いており、Ⅰ期官衙を構成するものと考えられる。SA1410はこれまでもⅠ期官衙内部を区画する材木跡とみられてきた遺構と同様のものであり、本調査区の中では遺存状況が良くなかったものの、さらに南北方向に続いていくものと考えられる。SB1300は北桁柱列で3間分まで検出したが、西側が調査区外で建物の全体規模は明らかにできなかった。しかし、柱穴規模や柱痕跡からみて大形の建物とは見なし難く、桁行は3～5間程と推定されよう。SB1420は1間分を検出したのみであるが、柱穴規模はやや大形である。建物の向き、規模とも不明であり、一本柱列による跡跡とみる可能性もあるが、SA1410に隣接し、同方向であることから、同期に跡が併存していたとするより、ここでは建物跡とみておきたい。

その他、柱根の遺存する柱穴等もいくつか検出され、官衙の建物柱穴と考えられたが、Ⅰ期Ⅱ期いずれに属するものか判然としない。SK1422からは土師器・須恵器・カマド支脚がまと

まって出土し、内面に漆が全面に付着した須恵器平瓶がある。所属段階は不明であるが、Ⅰ期・Ⅱ期いづれかの官衙の段階に伴うものとみられ、周辺に漆塗工房等の存在が考えられよう。

円形土坑は7基検出され、S K 1405・1407は深さが250 cm程もあり、井戸跡とも考えられる。他の5基もほぼ同様の形状を示しているが、前者にくらべ浅い。S K 1402・1403からは曲物・木製品、1405・1407からは多くの木材片が出土した。

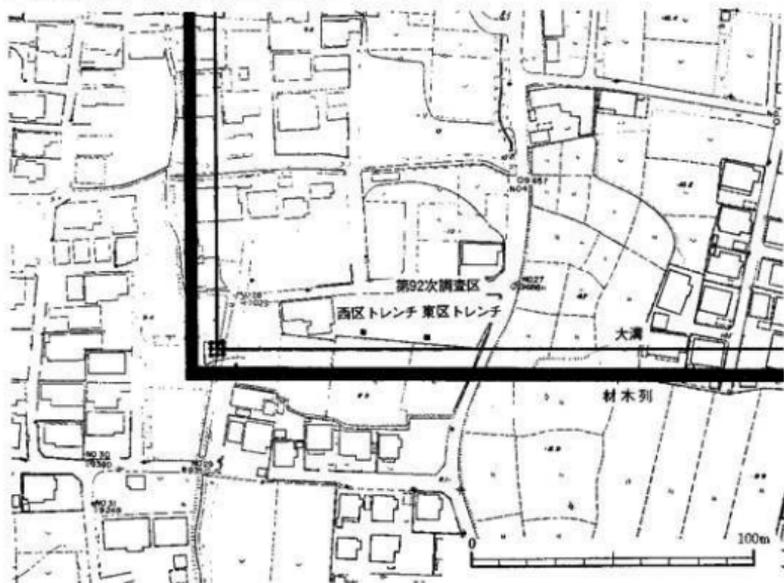
また、官衙遺構検出面の下層から樹形團式期の弥生式土器がまとめて発見され、東側に隣接する第44次調査における弥生式土器の出土の様相と同様の状況が考えられた（註3）。

V 第92次発掘調査

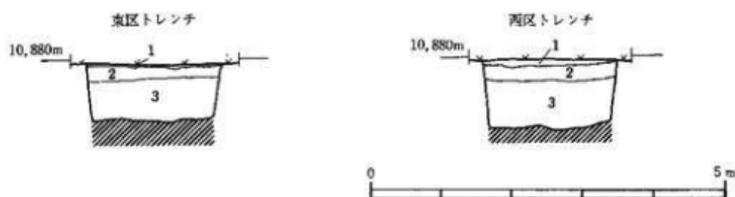
第92次調査は、東京都千代田区五番町14-1 財団法人住宅改良開発公社理事長鶴海良一郎氏より、仙台市太白区諏訪13-37(株)加藤商店加藤長治氏所有の、郡山6丁目213において共同住宅新築に伴う発掘届が、平成3年2月5日付で提出されたことから、平成3年9月3日より敷地内の発掘調査を実施した。

調査対象地区は、方四町Ⅱ期官衙の南西地区にあたり、外郭南辺材木列の直ぐ内側に接し、昭和55年、遺跡範囲確認調査の第1年次に実施した第4次調査区の北側に隣接する位置にあたる。本対象地区は調査開始以前から盛土がなされていたが、旧状は小田であった。第4次調査では水田耕作土を排除した第2層上面でⅡ期官衙外郭材木列・大溝等の遺構を検出した。周辺の水田と比較すると1m程度の盛土がなされたものと見られたこと、新築建物の基礎掘り方が50cm程度で盛土内に収まることから、敷地内での盛土厚確認と遺構検出面までの土層確認等を目的として、グリッド調査を実施した。

9月3日から調査を開始したが、建物配置等の関係から、敷地内の南側に2×2mのグリッドを20m程離れて2ヶ所設定した。盛り土は3層に分けられるが、いずれも最近のものともみ



第16図 第92次調査区位置図



層位	土色	土性	備	考
基本層位				
1	2.5 Y ㉔ 暗灰黄色	砂質シルト	表土	
2	5 Y ㉔ 暗オリーブ色	砂	5 Y ㉔ オリーブ色砂質シルトをブロック状に5 Y ㉔ 暗色砂質シルトを層状に含む	
3	10YR ㉔ 暗色	シルト	瓦礫等と多量に含む	

第17図 第92次調査区土層断面図

れる。旧耕作土と考えられる層がなく、80～90cmの盛り土下層に黄褐色粘土質シルトの遺構検出面（IV層上面）が確認されたが、調査区内では遺構は発見されなかった。翌9月4日に写真撮影、図作成を行ない、埋め戻し作業を行なって調査を終了した。

調査対象となった敷地の標高は9.70m程で、盛り土厚は80～90cm程であることから、遺構検出面標高は8.8～8.9m程となるが、南側に隣接する第4次調査時の西区の小回標高は8.50m、遺構検出面標高は8.30mであったことから、+50～60cmの段差が認められた。また、東側に隣接する第4次北区では、水田標高9.20m、検出面標高9.00mで、-10～20cmの段差が認められた。

VI 総 括

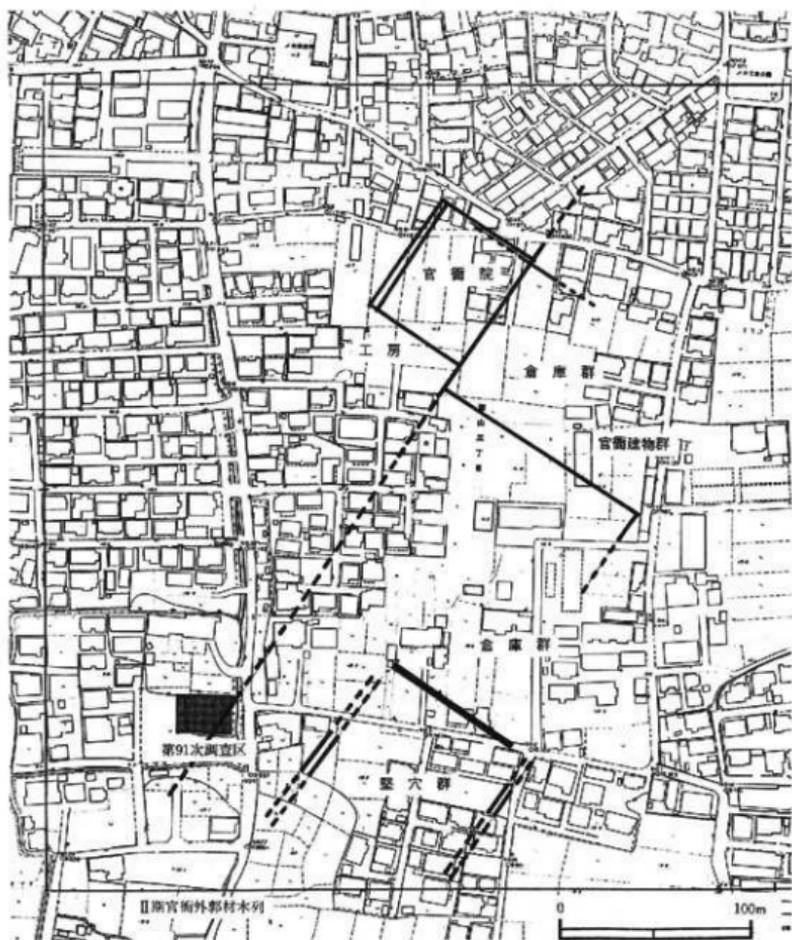
今年度は、第3次5ヶ年計画の2年次にあたり、Ⅱ期官衙南西地区の遺構確認を目的として調査が計画された。また、その他に、水道管理設・住宅建築等に伴う発掘届が提出され、Ⅱ期官衙北西地区、同北東地区、同南西地区外郭南辺隣接地での小規模な事前調査を2件予定していた。第90次調査は、水道管理設の事前調査として実施したが、道路敷内での調査であったことから、管理設工事と並行して進められ、遺跡北側での遺構確認を目的とした。調査の結果、複数の個所で堅穴住居跡が検出された。第91次調査はⅡ期官衙内南西地区での官衙建物の確認を目的として実施したが、却地の大規模な大地返しによる擾乱が深くまで及び、殆んどの遺構は破壊されており、Ⅰ期官衙段階および中世以降とみられる一部の遺構を検出したにとどまった。第92次調査は、共同住宅建築の事前調査として実施したが、盛土が厚く住宅基礎が遺構検出面まで及ばぬ工法がとられたことから、調査規模を縮小し、遺構検出面までの土層確認を目的として調査を行った。

1. Ⅰ期官衙の調査

Ⅰ期官衙を構成する遺構は第91次調査において発見された。

調査区南東部でわずかに検出されたS A 1410材木列は、南北方向にさらに延長するものとみられ、北側延長線は、昨年度までの調査で明らかとなっていたS A 255材木列と合致する推定線にある(註4)。方向・掘り方幅・材木痕跡等の様相はほぼ同一のものとみられる。S A 255は官衙域北方にあって、官衙院・工房ブロック等と倉庫群とを区画する壁で、さらに北側に延長していくことが判明しているが、S A 1410が北側に延長し、S A 255と接続するものとみれば、総延長は300m以上に及ぶ。しかし、第86次調査によるS A 255材木列の南端近くで、東から延びるS A 1242板塀跡と直角に接続し、南延進部分は板塀構造となっていることや、第86次調査区と第91次調査との間に約200mの未調査部分があることから、S A 1410とS A 255が一体となる材木列とは速断できないが、両遺構をつなぐこの推定線は、官衙域内を東西に大きく分ける区画帯となっていた可能性が考えられよう。この材木列の両側には第91次調査においても、ほぼ同期と考えられる建物があり、壁を挟んで内外の区別はないものとみえる。

官衙外郭は不明であるが、官衙内部は材木列・一本柱列・板塀などの各種の壁で区画されており、各区画により、内部の遺構は、掘立柱建物を主体とする官衙建物群、総柱構造の掘立柱建物を主体とする倉庫建物群、堅穴建物や堅穴住居を主体とする工房・雑舎建物群等に大きく分けられる。画区の全容がほぼ知り得るものは北方の官衙院1つのみで、各区画の全容、機能性格については不明な部分が多く、今後の調査を待って検討していきたい。



第19図 I期官衛全体図

2. その他の調査

Ⅱ期官衛の北西地区と東外地区の調査において堅穴住居跡が4軒発見されており、遺構の所属年代等は不明であるが、概ね第2～第4段階に属するものと考えられる。遺跡の北方地区にはこれまでも堅穴住居跡の存在が確認されており（註5）、今回発見した遺構もこれまでのものと一連の遺構と考えられる。Ⅱ期官衛造営より先行する時期の堅穴住居（註6）も確認されているが、Ⅱ期官衛との関連性も含め、北部城の堅穴住居跡については検討していきたい。

註・参考文献

度々、引用される郡山遺跡調査概報については次のとおりである。

- 「郡山報 1」 仙台市文化財調査報告書第23集「年報 1」『郡山遺跡発掘調査概報』1980
- 「郡山 I」 仙台市文化財調査報告書第29集「郡山遺跡 I」1981.3
- 「郡山 II」 仙台市文化財調査報告書第38集「郡山遺跡 II」1982.3
- 「郡山報 2」 仙台市文化財調査報告書第42集「郡山遺跡—第13次—」1982.3
- 「郡山 III」 仙台市文化財調査報告書第46集「郡山遺跡 III」1983.3
- 「郡山 IV」 仙台市文化財調査報告書第64集「郡山遺跡 IV」1984.3
- 「郡山 V」 仙台市文化財調査報告書第74集「郡山遺跡 V」1985.3
- 「郡山 VI」 仙台市文化財調査報告書第86集「郡山遺跡 VI」1986.3
- 「郡山 VII」 仙台市文化財調査報告書第96集「郡山遺跡 VII」1987.3
- 「郡山 VIII」 仙台市文化財調査報告書第110集「郡山遺跡 VIII」1988.3
- 「郡山 IX」 仙台市文化財調査報告書第124集「郡山遺跡 IX」1989.3
- 「郡山 X」 仙台市文化財調査報告書第133集「郡山遺跡 X」1990.3
- 「郡山報 3」 仙台市文化財調査報告書第145集「郡山遺跡—第84・85次—」1990.6
- 「郡山 XI」 仙台市文化財調査報告書第146集「郡山遺跡 XI」1991.3

註 1 「郡山報 1」(P. 7~20)

註 2 「郡山 VII」IX章 1 (P. 77)

註 3 「郡山 V」IV章 3 (P. 37~46)

註 4 「郡山 XI」VII章 1 (P. 55~58)

註 5 「郡山 VI」XII章 (P. 76~78)。「郡山 IX」VI章 (P. 42~46)

註 6 註 4 と同

調査成果の普及と関連活動

1. 広報・普及・協力活動

月日	行 事 名 称	担当職員	主 催
5.10	「地域文化考」講座 第1回	木 村	八本松市民センター
9.13	「 〃 」 〃 第2回	木 村	〃
10.29	「 〃 」 〃 第3回	木 村	〃
12.7～8	宮城県内発掘調査成果発表会	木村・長島	宮城県教育委員会
2.15～16	第18回古代城柵官衙遺跡検討会	田中・木村・長島	
	仙台市博物館 常設展「原始・古代・中世」		
	八本松市民センター 「郡山遺跡資料展示」		
	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館 企画展「東国の初期寺院」		
	日本考古学協会宮城・仙台大会 「ミニ展示」		
	宮城県教育委員会・朝日新聞社 「よみがえる多賀城」展示		

2. 調査成果執筆

「東北地方における官衙の成立」 「月刊文化財」 8月号 木 村

3. 調査指導委員会の開催

第20回 郡山遺跡調査指導委員会 3月18日 上杉庁舎6F会議室

○平成3年度の事業報告について

○平成4年度の調査計画について

郡山遺跡関係文献目録

I. 仙台市刊行図書、学会・研究会等発表

仙台市文化財調査報告書第23集「年報1」	『郡山遺跡発掘調査概報』	1980.	3		
仙台市文化財調査報告書第29集	『郡山遺跡Ⅰ』	1981.	3		
仙台市文化財調査報告書第38集	『郡山遺跡Ⅱ』	1982.	3		
仙台市文化財調査報告書第42集	『郡山遺跡—第13次—』	1982.	3		
仙台市文化財調査報告書第46集	『郡山遺跡Ⅲ』	1983.	3		
仙台市文化財調査報告書第64集	『郡山遺跡Ⅳ』	1984.	3		
仙台市文化財調査報告書第74集	『郡山遺跡Ⅴ』	1985.	3		
仙台市文化財調査報告書第86集	『郡山遺跡Ⅵ』	1986.	3		
仙台市文化財調査報告書第96集	『郡山遺跡Ⅶ』	1987.	3		
仙台市文化財調査報告書第110集	『郡山遺跡Ⅷ』	1988.	3		
仙台市文化財調査報告書第124集	『郡山遺跡Ⅸ』	1989.	3		
仙台市文化財調査報告書第133集	『郡山遺跡Ⅹ』	1990.	3		
仙台市文化財調査報告書第145集	『郡山遺跡—第84・85次—』	1990.	6		
仙台市文化財調査報告書第146集	『郡山遺跡Ⅺ』	1991.	3		
仙台市文化財パンフレット第10集	『郡山遺跡』	1985.	10		
仙台市文化財パンフレット第18集	『郡山遺跡』	1989.	12		
仙台市博企画展パンフレット	『七世紀の仙台平野』	1989.	2		
仙台市博企画展パンフレット	『古代の仙台平野—掘り起こされた文字資料』	1990.	2		
グラフ「せんだい」№24	『原始古代の仙台を訪ねて—郡山遺跡』	1982.	12		
『仙台市史』3巻別篇1『仙台市内の古代遺跡』	伊東 信雄	1950.	8		
日本考古学協会第47回総会資料	『仙台郡長遺跡の調査』	早坂 春一	1981.	5	
日本考古学協会第52回総会資料	『仙台郡山遺跡の調査』	木村 浩二	1986.	4	
日本考古学協会第56回総会資料	『仙台郡山遺跡における官衙寺院の調査』	木村 浩二	1990.	5	
『日本考古学年報』32(1979年度版)	『発掘と調査』佐々木茂樹	1982.	4	日考協	
『日本考古学年報』33(1980年度版)	『発掘と調査』手塚 均	1983.	3	々	
『日本考古学年報』34(1981年度版)	『発掘調査略報—54宮城県郡山遺跡』	木村浩二・青沼一民	1984.	4	々
『日本考古学年報』35(1982年度版)	『各都道府県における発掘調査の概略』				

- 小井川一夫 1985. 4 日考協
- 「日本考古学年報」36 (1983年度版) 「各都道府県における発掘調査の概略」
- 藤沼邦彦 1986. 4 *
- 「日本考古学年報」37 (1984年度版) 「各都道府県における発掘調査の概略」
- 加藤 孝 1986. 4 *
- 「日本考古学年報」38 (1985年度版) 「各都道府県における発掘調査の概略」
- 藤沼 邦彦 1987. 4 *
- 「日本考古学年報」39 (1986年度版) 「3.宮城県郡山遺跡」木村 浩二
- 「各都道府県における発掘調査の概略」 白鳥 良一 1988. 4 *
- 「日本考古学年報」40 (1987年度版) 「各都道府県における発掘調査の概要」
- 加藤 道男 1989. 4 *
- 「日本考古学年報」41 (1988年度版) 「各都道府県における発掘調査の概略」
- 進藤 秋輝 1990. 5 *
- 第6回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「郡山遺跡」 1980. 3 城柵検
- 第7回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「長町郡山遺跡」 1981. 2 *
- 第8回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「郡山遺跡」 1982. 2 *
- 第9回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「郡山遺跡」 1983. 2 *
- 第10回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「郡山遺跡」 1984. 1 *
- 第11回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「仙台郡山遺跡」 1985. 2 *
- 第12回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「郡山遺跡」 1986. 2 *
- 第13回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「仙台郡山遺跡」 1987. 2 *
- 第14回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「郡山遺跡」「郡山遺跡の瓦」 1988. 2 *
- 第15回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「郡山遺跡」 1989. 2 *
- 第16回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「郡山遺跡」 1990. 2 *
- 第17回古代城柵官衙遺跡検討会資料 「郡山遺跡をめぐる諸問題」他 1991. 2 *
- 昭和62年度宮城県内発掘調査成果発表会資料 「仙台市郡山遺跡」 1987.12 宮城県
- 昭和63年度宮城県内発掘調査成果発表会資料 「仙台市郡山遺跡」 1988.12 *
- 平成元年度宮城県内発掘調査成果発表会資料 「仙台市郡山遺跡」 1989.12 *
- 平成2年度宮城県内発掘調査成果発表会資料 「仙台市郡山遺跡」 1990.12 *
- 1984年度東北史学会大会資料 「仙台市郡山遺跡をめぐる諸問題」
- 木村 浩二・長島 栄一 1984. 10
- 1986年度東北史学会大会資料 「郡山遺跡のⅡ期官衙・廃寺跡の調査」木村 浩二 1986. 10

II. 投稿・寄稿・紹介等

- 「広名」21『郡山遺跡—埋もれていた郡山の歴史—』 早坂 春一 1982. 3 郡山中
- 「広名」28『郡山遺跡—新たな発見—』 長島栄一・千葉 仁 1989. 3 *
- 「古代文化」VOL. 35『仙台市の郡山遺跡の発掘調査』 木村浩二 1983. 2 古代学協会
- 「考古学ジャーナル」№198『郡山遺跡の調査』 木村浩二・青沼一民
1981. 12 ニューサイエンス社
- 「考古学ジャーナル」№224『仙台市・郡山遺跡』 木村浩二・長島栄一
1983. 11 ニューサイエンス社
- 「木簡研究」第四号『宮城・郡山遺跡』 平川 南・木村浩二 1982. 11 木簡学会
- 「日本歴史」6月号第409号 文化財レポート『仙台市郡山遺跡』 木村 浩二
1982. 6 吉川弘文館
- 「日本歴史」10月号第497号 文化財レポート『郡山遺跡その後』 木村浩二・長島栄一
1989. 10 吉川弘文館
- 「月刊文化財」8月号『東北における官衙の成立』 木村 浩二 1991. 8 文化庁
- 「宮城県百科辞典」『郡山遺跡』 木村 浩二 1980. 河北新報社

III. 外部報告・紹介等

- 「宮城県史」34(資料篇11)『古代』 伊東 信雄 1981. 10
- 「日本の古代遺跡」15『宮城』 工藤 雅樹 1986 保育社
- 「国立歴史民俗博物館研究報告」第10集 共同研究『古代の国府の研究』 1986. 3
- 「国立歴史民俗博物館研究報告」第20集『国府研究の現状その二』 阿部義平・他 1989. 3
- 「考古学ジャーナル」№263『古代(東日本)』 高橋 一夫 1986. ニューサイエンス社
- 「月刊文化財」12月号『都城発掘史14 国府と郡衙』 阿部義平 1984 文化庁
- 「史学雑誌」第93編第5号『1983年の歴史学会回顧と展望』 桑原滋郎 1984. 5 史学会
- 「多賀城と古代東北」『II 古代東北の歴史と文化』 1985. 3 東北歴史資料館
- 埋蔵文化財ニュース40『飛鳥白鳳寺院関係文献目録』 1983. 3 奈文研・埋文センター
- 埋蔵文化財ニュース41『陶瓦関係文献目録』 1983. 6 奈文研・埋文センター
- 「言語生活?」№379文月 表紙のこぼれ 藤枝 晃 1983. 7 筑摩書房

IV 論 文 等

- 「宝蓋」『東北地方発見の重弁蓮華文鏡瓦に就いての一考察』 内藤政恒 1963. 8
- 芹沢長介先生還暦記念「考古学論叢」『古代城柵政庁の基礎的考察』 阿部義平 1989. 3
- 「国立歴史民俗博物館研究報告」第1集『古代の城柵跡について』 阿部義平 1982. 6
- 「国立歴史民俗博物館研究報告」第20集『城柵と国府・郡家の関連』 阿部義平 1989. 3
- 「講座日本歴史」2 古代2 『都城と地方官衙』 今泉隆雄・山中敏史 1984. 11 東大出版
- 「日本考古学」別巻1「日本考古学研究の現状文献解題Ⅰ」
- 『地域別文献解題・東北』 加藤 稔・須藤 隆 1986. 8 岩波書店
- 「考古学ライブラリー」50『官衙』 阿部義平 1989.5 ニューサイエンス社
- 「考古学ライブラリー」51『城柵と蝦夷』 工藤雅樹 1984.7 ニューサイエンス社
- 「日本の美術」2 No.213『多賀城跡』 桑原滋郎 1985.3 至文堂
- 「太宰府と多賀城」『多賀城と東北の城柵』 桑原滋郎 1989.5 岩波書店
- 「多賀城碑—その謎を解く—」 安部辰夫 1989.5 雄山閣
- 「漆紙文書の研究」 平川 南 1989.7 吉川弘文館
- 「東北古代史の研究」『多賀城創建をめぐる諸問題』 1986 吉川弘文館
- 「明日香風」24『阿倍氏の航跡 東北経営と「越」』 若月義小 1987 飛鳥保存財団
- 「明日香風」25『東北の城柵について』 桑原滋郎 1988 *
- * 『郡山遺跡と名生館遺跡』 白鳥良一 1988 *
- 古代を考える 別冊「古代学評論」創刊号
- 『律令制時代考古学の研究動向と諸問題』 小笠原好彦 1988.5 古代を考える会
- 「仙台の歴史」古代5『郡山遺跡と因分寺』 今泉隆雄 1989.6 宝文堂
- 「図説宮城県史」『陸奥国の建国と郡山遺跡』 今泉隆雄 1988.6 河出書房新社
- 「目で見る仙台の歴史」 1989 宝文堂
- 「考古学雑誌」5-5『漆液を容れたる陶器』 山中 樵 1915. 1
- 「東京化学会誌」36-1『古陶器中の生漆鑑定』 眞島利行・千葉長三 1915. 1
- 「歴史手帳」第12巻第5号『秋田城と多賀城』 高橋富雄 1984. 5 名著出版
- * 『古代の城柵像と秋田』 阿部義平 * *
- * 『古代城柵と附属寺院』 三舟隆之 * *
- 「国史談話会雑誌」第30号『律令制下東北辺境地域における仏教の一様相』
- 樋口知志 1989 東北大國史談話会
- 「地方史研究」第221号『八世紀前半以前の陸奥国と坂東』 今泉隆雄 1989. 10
- 「日本史研究」第280号『城柵の彼方—古代東北史像の地平—』 佐藤宗諱 1985. 12

- | | | | |
|------------------------------|------|-------|----|
| 「新潟県歴史教育論考」第7号「古代東北における「城柵」」 | 木村英祐 | 1988. | 2 |
| 「龍谷大学大学院紀要」3『仙台平野の条里制遺構』 | 神 英雄 | 1981 | |
| 日本考古学協会宮城・仙台大会シンポジウム資料集 | | | |
| 「北からの視点」『城柵の設置とその意義』 | 進藤秋輝 | 1991. | 11 |

写 真 图 版



図版1 郡山遺跡航空写真



図版 2 第91次調査区
全景 (東より)



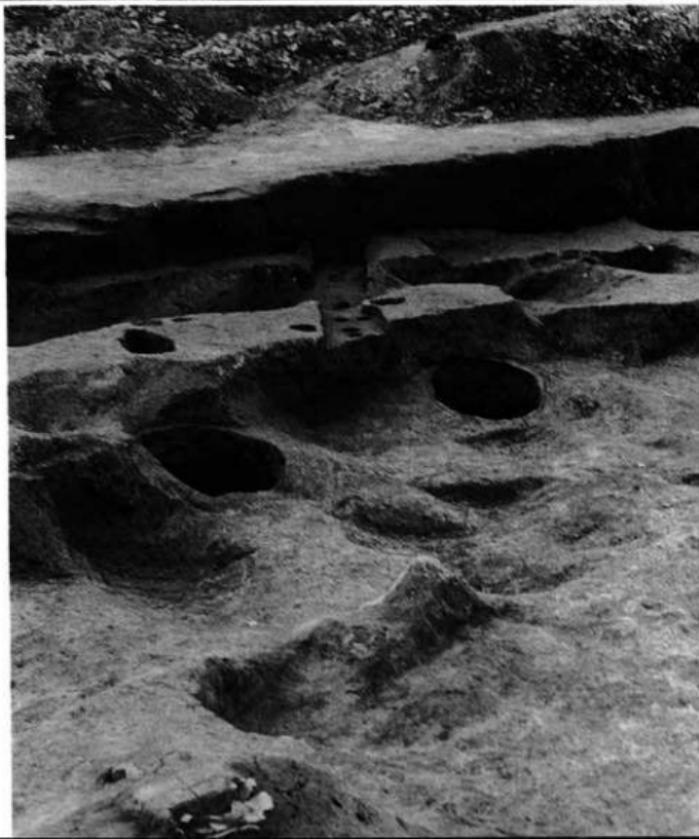
図版 3 第91次調査区
全景 (南より)



図版 4 第91次調査区
SB1300全景
(南より)



図版 5 第91次調査区
SB1300全景
(南より)



図版 6 第91次調査区
SA1410全景
(東より)



図版7 第91次調査区
SA1410全景
(南より)



図版8 第91次調査区
SA1410、
SB1420
全景
(東より)

図版9 第91次調査区
SB1420全景
(東より)



図版10 第91次調査区
SK1401土層
断面(北より)



図版11 第91次調査区
SK1402全景
(南より)





図版12 第91次調査区
SK1403遺物出土
状況(南より)



図版13 第91次調査区
SK1403全景(南より)



図版14 第91次調査区
SK1404全景
(南より)

図版15 第91次調査区
SK1405完
(南より)



図版16 第91次調査区
SK1406全景
(南より)



図版17 第91次調査区
SK1407完掘
(南より)





図版18 第91次調査区
SK1408全景
(北より)



図版19 第91次調査区
SK1409全景
(北より)



図版20 第91次調査区
SK1411全景
(南より)

図版21 第91次調査区
SK1412全景
(北より)



図版22 第91次調査区
SK1413全景
(北より)



図版23 第91次調査区
SK1414全景
(北より)





図版24 第91次調査区
SK 1415土層断面
(南より)



図版25 第91次調査区
SK 1422土層断面
(北より)



図版26 第91次調査区
SK 1422全景
(南より)

図版27 第91次調査区
SK1422全景
(北より)



図版28 第91次調査区
弥生土器出土
状況(南より)



図版29 第91次調査区
弥生土器出土
状況(北より)





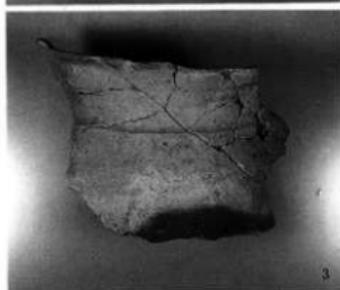
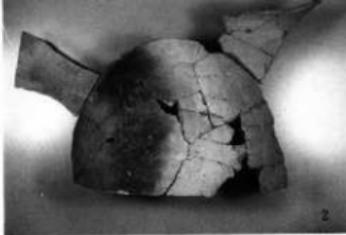
図版30 第91次調査区
作業風景



図版31 第92次調査区
東区全景(北より)



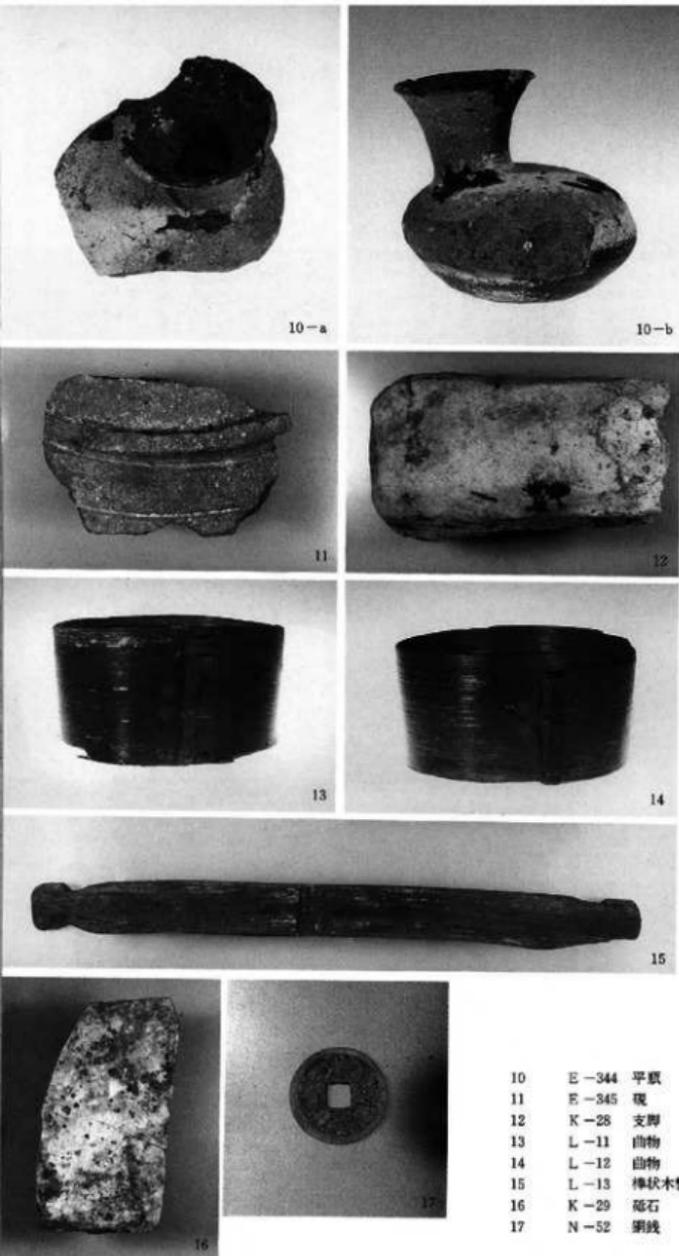
図版32 第92次調査区
西区全景(北より)



- 1 C-698 甕 90次
 2 C-699 甕 90次
 3 C-701 甕 90次
 4 B-215 壺 91次
 5 B-214 甕 91次
 6 B-250 高坏 91次
 7 C-704 坏 91次
 8 C-708 高坏 91次
 9 C-707 甕 91次

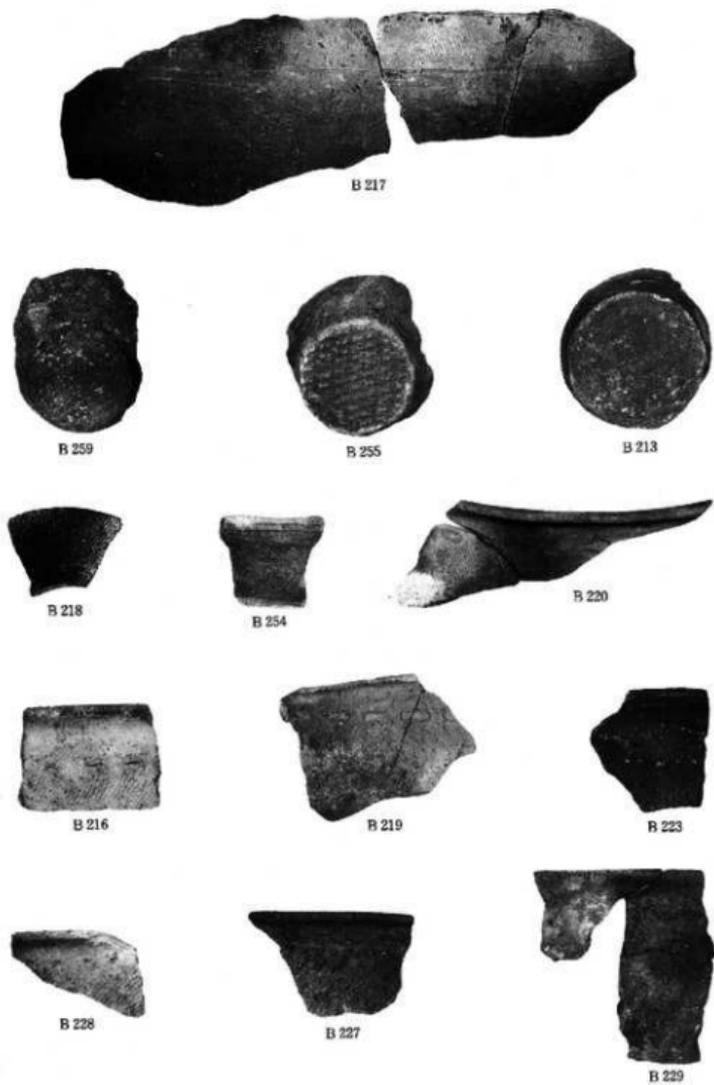
图版33 第90、91次調査区出土遺物





- | | | | |
|----|-------|-------|-----|
| 10 | E-344 | 平瓶 | 91次 |
| 11 | E-345 | 碗 | 91次 |
| 12 | K-28 | 支脚 | 91次 |
| 13 | L-11 | 臼物 | 91次 |
| 14 | L-12 | 臼物 | 91次 |
| 15 | L-13 | 棒状木製品 | 91次 |
| 16 | K-29 | 礫石 | 91次 |
| 17 | N-52 | 銅銭 | 91次 |

図版34 第91次調査区出土遺物



图版35 第91次調査区出土弥生土器



B 247



B 232



B 231



B 248



B 242



B 244



B 239



B 245



B 230



B 241



B 240



B 237



B 251



B 246



B 243



B 233



B 253

図版36 第91次調査区出土 弥生土器

文化財課職員録

課長 早坂春一

管理係

係長 輪田義幸

主事 白幡靖子

◇ 佐藤正幸

◇ 高橋三也

◇ 庄司 厚

調査第一係

係長 加藤正範

主任 熊谷幹男

教諭 佐藤好一

主任 篠原信彦

◇ 木村浩二

主事 吉岡恭平

教諭 小川淳一

主事 主浜光朗

◇ 長島栄一

教諭 神成浩志

◇ 高倉祐一

◇ 稲葉俊一

◇ 菅原裕樹

主事 佐藤 淳

◇ 渡部 紀

◇ 大江美智代

教諭 熊谷裕行

調査第二係

係長 田中則和

教諭 太田昭夫

主事 金森安孝

◇ 佐藤甲二

◇ 渡部弘美

◇ 工藤哲司

◇ 斎野裕彦

◇ 工藤信一郎

◇ 荒井 裕

◇ 中高 洋

◇ 平間亮輔

教諭 五十嵐康洋

◇ 川名秀一

「郡山遺跡」発掘調査報告書刊行目録

- 第 23 集 年 報 1 - 昭和54年度発掘調査略報 - 昭和55年 3 月
- 第 29 集 郡山遺跡 I - 昭和55年度発掘調査概報 - 昭和56年 3 月
- 第 38 集 郡山遺跡 II - 昭和56年度発掘調査概報 - 昭和57年 3 月
- 第 42 集 郡山遺跡 - 宅地造成に伴う緊急調査 - 昭和57年 3 月
- 第 46 集 郡山遺跡 III - 昭和57年度発掘調査概報 - 昭和58年 3 月
- 第 64 集 郡山遺跡 IV - 昭和58年度発掘調査概報 - 昭和59年 3 月
- 第 74 集 郡山遺跡 V - 昭和59年度発掘調査概報 - 昭和60年 3 月
- 第 86 集 郡山遺跡 VI - 昭和60年度発掘調査概報 - 昭和61年 3 月
- 第 96 集 郡山遺跡 VII - 昭和61年度発掘調査概報 - 昭和62年 3 月
- 第 110 集 郡山遺跡 VIII - 昭和62年度発掘調査概報 - 昭和63年 3 月
- 第 124 集 郡山遺跡 IX - 昭和63年度発掘調査概報 - 平成元年 3 月
- 第 133 集 郡山遺跡 X - 平成元年度発掘調査概報 - 平成 2 年 3 月
- 第 145 集 郡山遺跡 - 第84・85次発掘調査報告 - 平成 2 年 6 月
- 第 146 集 郡山遺跡 XI - 平成 2 年度発掘調査概報 - 平成 3 年 3 月
- 第 161 集 郡山遺跡 XII - 平成 3 年度発掘調査概報 - 平成 4 年 3 月

仙台市文化財調査報告書第161集

平成3年度

郡山遺跡XII

—平成3年度発掘調査概報—

平成4年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町3-7-1

印刷 株式会社東北プリント

仙台市青葉区立町24-24 TEL.263-1166
